

令和6年度 第4回長崎市文化振興審議会 議事録

日 時：令和6年6月12日（水）10：00～12：00

会 場：市役所7階 記者会見室兼中会議室

次 第：

- 1 新たな文化施設の整備について
- 2 市民文化活動振興プランについて

次第1 新たな文化施設の整備について

【事務局】

前回新たな文化施設の整備の一部見直しに関し、様々な観点からのご意見を頂戴した。特に前回の協議においては基本的な方向性を踏まえたうえで委員の皆様から利用者の視点も踏まえたご意見、専門家としての知見に基づいた様々な前向きなご意見やアイデアを頂戴した。本日の審議会では、そのようなご意見を反映した案について改めて貴重なご意見を頂戴できればと考えているので、忌憚のないご意見をよろしくお願ひしたい。

【事務局】資料1 新たな文化施設の整備について説明

【会長】

今のご説明で前回のまとめとして抜けていた部分は、練習室は創造を支援するスペースで、そこがあることにより新たな文化施設が日常的な賑わいを生み、そこに集まりそこで文化を作っていくことも大事だとの議論がされていたが、それは取り上げてなく、実は大事なところ。今ご説明があった他のところで練習室があれば良いのではなくそもそも施設には練習室が必要だと議論をした。

【事務局】

もちろんその視点も大事なところで、あくまでも最初に見直し案としてお示ししたブリックホールを改修することで練習室の不足に対応し新文化施設には設置しないとの部分に関し、それを見直す理由となった部分だけを抜粋し説明させていただいたが、当然そもそも創造支援で練習機能が必要なのは構想にもあるとおり大事な観点であることは間違いない。

【会長】

当初その点が欠落しており、他のところに作れば良いとの発想はそもそも我々の認識とは違うとの指摘を前回させていただいたのでそれは基本。

【委員】

練習室は当初の案には書かれていたのでどう見直すかは割愛せず文字として示していきたい。

【会長】

継続して検討中で方向が見えていないようだが方向が見える前に議論させてほしい。

【事務局】

練習室は前回委員の皆様から一番ご意見を賜ったところと十分認識しており、創造支援機能として基本構想、基本計画の中にもうたいこんでいることは重々承知している。ただ例えばジャンルごとのニーズや他都市の施設の作りをしっかりと精査し継続し検討したいので、随時、資料でも今後お示ししたい。

【会長】

単なる練習室ではなく創造支援の場としては非常に良い観点でそのとおりでと思う。せっかく他館を参考にされるなら東大阪市文化創造館の視察に行かれたら良い。創造支援室が複数ある。音楽スタジオ、工芸絵画の作品作りのスペース、バレエダンススタジオ。キッズルームもある。削減縮小に有効なホールばかりでなく機能が充実し活用されているところもバランスよく調査されたら良い。単なる練習室でなく、そこでいかにバレエや絵など日常的な創造活動がされ、子どもたちが集まっているかは大事だと強く思う。

【委員】

新年度に入り2週間程度の間隔で審議会が開催されているが、前々回見直し案が出た時に委員からサウンディング調査の予算は取っているかとの質問があり、取っていないとのお答えだった。見直し案をずっと検討し、ほぼ皆さんが納得し、創造支援としての練習室があるかはまだ検討中だが、官民連携としてのサウンディング調査が一体いつ頃できると想定しているのか。見直し案だけがどんどん進み根本的な着工に向けた本当の足がかりは全く見えてこないのは不安で、明確に示していただきたい。

【事務局】

サウンディング調査に係る予算は計上していないと前回お話しさせていただいたが、例えば長崎市が会社にお問い合わせする時には当然その予算が必要になるが、そのような方法だけでなく様々な方法があり、必ずしも予算を計上しなくても実施できるので、早急にできるような準備をしており、準備でき次第、皆様にもお知らせしたい。

【委員】

以前弁当箱の理論で、弁当箱にどのようにして物を詰めるかの話があり、その中で決めていったと思うが、今の段階でその弁当箱の大きさは変わっていないか。

【事務局】

基本計画策定時に弁当箱の考え方で文化施設の中の機能を考えていくべきとの話があった。箱の中にご飯をどこまで入れ、おかずは何を入れ、その量や内容がどうなのか、いろいろな使い方もあるので、箱がありその中をどうしていくかを議論しようとのことだった。そもそ

もの箱の大きさが変わっていないかは、今回小さくしたくてお話をしているわけではもちろんなく、あくまで設計に向け基本計画で検討するとの書き方をしていた例えば奈落の部分や、技術革新が進み見直せる部分を最新の状態にしようとしているその結果をもってどうなるかで、箱を小さくしたくて箱に合わせて削っていかうとの考え方ではないとご理解いただきたい。

【会長】

今のお話は理解できなかった。変わらないなら練習室は置いておいてどのような部屋にするか、コンサートができるようにするか、大きな部屋でスタジオにするかとの話になる。今検討されているのは少しそれが縮められないかとの話が出ている気がするが、そうではなく、いかに充実した創造支援機能の部屋として練習室を作るかとのことか。そうではないように聞こえる。

【事務局】

当時市庁舎本館跡地に整備する前提で議論をしてきた経緯がある。当然敷地の面積等は分かっており、その中に収まること、先程の話で言うと弁当箱を前提とし、どのような機能の中に入れ込むかとの議論だったと記憶している。今回再度整理をした結果市庁舎本館跡地の場所自体は変わらず、改めて市庁舎本館跡地で整備するとの考え方をお示しした。そのことからするとお話があった弁当箱の大きさを変えることにはならない。

【委員】

資料で花道は触れていないが、以前は小迫りと両花道を付けていただくとのことだったが、変化はなく両方付けていただけるか。

【事務局】

お示しした見直し案で触れておらず、計画から変更する考えは今のところない。

【委員】

変わっていないならこの議論は何なのか腑に落ちない。てっきり大きさが小さくなるので練習室を省くとかホワイエとロビーを一緒にするとか奈落の空間を無くすとか調光盤室を無くすとの削減ありきの話が出たと思っていたが、今の話だと全然その箱自体の大きさが変わっていないのであれば、最初に示していた段階で搬入口とか大ホールとかいくつか説明を受け、てっきりそれで進んでいくと思っていたが、この議論はなぜしているのか。

【事務局】

箱の大きさ、弁当箱の理論の部分で、場所自体は変わっていないとお話しさせていただいた。

いわゆる大きさを決めその面積に合うように中を決めるとの議論ではなく、一定考えられる敷地に合わせたキャパはあるので、先程弁当箱の理論もあったが、どのような機能が必要かについて、他都市の事例も参考にしながらこれまで議論がされ基本計画ができ、その結果として大きさ、面積が出てきたと認識している。参考にしてきた他都市の状況や設備の状況の変化を踏まえ見直しが可能なものがないかと考えた時にこのような見直しが可能ではないかと前回、前々回お示しし、皆様からも意見を頂戴し、可能なものについてはそのような見直しを反映させた結果として面積が変わらないのか変わるのかであり、あくまでも面積ありき、箱を前提としてではないと考えている。

【会長】

面積が一番関係するのはメインホールのキャパで、それは議論した。1,500席との意見から800席ぐらいでも良いのではないかとの中で、全国のイベントでのピークや長崎の過去の公会堂やブリックホールの利用のデータを取り、1,000席ぐらいが一番多かったので1,000席との数字を出した。それから人口規模に対しての他都市のホールの大きさを1,000席となるとその1,000席は面積。それに付随する機能として当然必要な諸室があるので、弁当箱のご飯を入れる部分の面積は最初からあった。今おかずがどのくらい入れられるかとの話か。そもそもその箱の大きさはなかったとの趣旨か。1,000席程度とのこととおおよそのキャパ、ホールの規模は共通認識があった気がする。それがなければ昨年4月の本来設計に入る段階で進めなかったと思うがいかがか。

【事務局】

おっしゃるとおりまずホールの規模の部分前提とし必要な機能を入れていくとの意味で概ねの大きさは前提とし議論してきたとの認識である。実際必要だとその中に入れようと想定していたものは、他都市含め取り巻く環境、社会状況を踏まえたうえで少し見直しが可能ではないかと、もう少しご意見を頂戴しようというのが今回で、可能なものについては少し見直しをしていこうとのことで、決して先ほどのお話であったようにご飯、ホールの部分の1,000席程度そのものを見直すのでは当然なく、それを前提とし考えていたおかず1つ1つの部分で例えば他都市の状況を見た時に少し小さくてもできるものがあればそれは見直しをしていけないかが今回の議論と理解いただきたい。

【委員】

その議論は散々した。何が必要かもう一度検討との話になり、元々市長が変わり本当にこの土地で良いのかと場所の検討で1年間会議があり、方法をもう1回検討しようとなり1年間また同じ検討をし、検討ばかりしている気がするが、全然前に進まず、大きさ自体が変わっていないなら検討する必要はない。必要なのはこれだけと審議会です市に提出し議論をしているがそれもいまいち。サウンディング調査や着工に向けての話がどうなっているかの

話を聞かせていただき議論させていただく方が良いと思うがいかがか。

【事務局】

弁当箱の話は、箱があったらその中身をどれだけ充実させご飯をこれだけ入れ栄養バランスも考えおかずがこれだけ必要との理論はすごく分かりやすいと思った。ただ今議論しているのは、この大きさの弁当箱しかないと言っていることでもなく、まずご飯がどれだけ必要か、どんなおかずが食べたいか、そのうえで必要な弁当箱の大きさは決まっていく感覚を持っている。弁当箱と削減は完全にリンクしない部分もあると思うが、設計の段階に今後進んでいき詳細に詰めていかなければいけない部分、基本計画で皆さんに議論していただく中でまだまだ詳細に詰められていなかった部分を、今一度皆さんからご意見をいただきたい、基本計画を議論していた数年前から例えば照明では少し技術革新があり、工夫ができないかなどのお話を改めてさせていただいているので、弁当箱の話は分かりやすくはあるが、その弁当箱しかないからどう詰めるかと、必ずしもそうではないと感じる。

【委員】

当時構想を練り計画を立てている段階で受託業者が具体的な箱のイメージを説明しながらこのような作りをするところのようなメリットデメリットがあると具体的に示していただきながらの中で練っていった事実がある。それは単なる机上の空論の弁当箱理論だけではなく、実際にこのような建物になったらこのようになる、客席のこの見切りが弱くなるなど、その中で客席数、キャパが1,000席か1,200席か800席かと議論したうえでの結論として私たちは1,000席との数字を導き出しそれに対しこのような諸室が必要、創造支援機能が当然重要との結論にも達した。それを今更削の話ではたぶんないと思うし、効率を追求していくのであればこのメンバーだけではなく数ある設計や運用をしている方々をお呼びしてご意見なり持っている知見を具体的に聞かせていただきながら近年ならこのようなホールの作りが主流になっているなどを具体的にイメージしながら検討するのであれば良いと思うが、今ここでまさに机上の空論だけで、何を削れるのかは実際に建築家の方の意見を聞いてこのような削り方は可能ではないかとお示しいただきながら議論するのであれば建設的だと思うが、今全く建設的ではない議論がここでされているようにしか思えないがいかがか。

【事務局】

今回の見直し案、今日改めて前回2回のご意見を踏まえた案をお示しさせていただいているが、それを出すにあたっては芸術アドバイザーや今言われた建築に実際携わっている方のご意見も踏まえたうえで出させていただいている。ただ100が0になるとの具体的な数字の話まではさせていただいていないしそこまではできないので、考え方として、効率的な工夫ができないのかを、皆さんにもご意見いただきたく一旦案を出させていただいた。

【委員】

もう意見は出尽くしていると思う。審議会メンバーの総意はもう第2回、第3回で全てお答えしていると思うが、今更これ以上何を私たちに求めるのかとの段階で、同じメンバーで顔を突き合わせこれ以上同じことを繰り返し議論しても意味がないのではないか。様々な方々をお呼びし交えながら議論するのであれば建設的なのではないか。

【会長】

以前もホールの事例を示していただいた。舞台から風景が見えるとか広場とホール一体化のエントランスとか様々な事例があった。1つの施設を2つに使っていく事例もあったがそれは事例。長崎はどうするか。意見を聞きもう1回作り直すか。それとも我々が出しているものでいかに進められるか覚悟を決めていただくしかないと思う。そろそろ前に進みたい。練習室は創造支援機能のことについては何も出ていないし説明いただいてもたぶん納得がしにくい気がするが、また練習室含めたところで見直し案が出てくるか。

【事務局】

先程申し上げたとおり今後他都市の状況や様々なジャンルの方のニーズを長崎として適正かをしっかり分析したうえでお示ししたいと考えている。

【会長】

長崎のホールを作るわけだから、それをしっかり肝に据えてほしい。せっかく見直しをされるなら先程の東大阪市文化創造館大ホールのコンセプトは「最高の音響空間」と「上質な鑑賞環境」、我々のホールもそうありたい。それプラスいかに創造支援を付加するか。事務局に最後にお伺いするが、結局練習室はできればなしにしたいか。それともとても大事だから維持したいとの考えか。

【事務局】

1回目2回目特に前回、機能それぞれについて順番にご意見を頂戴した形で議論させていただいた。そこで出たご意見を踏まえ練習室を除く部分について見直し案（変更後）との形で文章的に整理をさせていただいたのが今回のもので、まだ整理できていないのが練習室の項目。その分については先程説明したように、いただいたご意見、市内の状況含め様々な状況を把握したうえで話していく必要があると思う。大変申し訳ないがもう少し時間が必要かと考えているので今回お出しすることがなかなかできなかったところだが次回改めて今回と同じような形でどうするかはお示ししたうえで、またご意見を頂戴できればと思う。

【会長】

質問したことには答えていただけないことが、答えにくいと分かった。ただ我々はとても関

心があるところ。物価高騰など諸般の事情は理解する。ただ必要なものは必要なものでそれはお伝えしたうえで次回整理していただく。そうしなければ無駄な議論になれば残念なのでよろしくお願ひしたい。

【委員】

このようなものを作りたいとすごく話し合いを積み重ねていき本当に作り上げたところでのストップだったと思っている。一旦それを受けそれを叶えるホール、文化施設を作った場合の全体を設計したところで、これぐらいかかるが、予算的にやはりこれだけに抑えないといけないので何をどうできるか相談したいとの議論だったら分かるが、それが見えないままこのようなことをまた4回目このような資料で検討しないといけないのかと思うと、本当にそれはもう止めていただきたいと、はっきり思う。この見直し案は見て分かるようにやはり予算をどれだけ抑えるか、材料費など作らずに済むものは抑え、お金が掛からないようにしたいとの見直しとして出されていると思うが、そこだけ出されても検討の仕様がなない。そもそもこれだけのものを作りたいというものは作り、示したと思うので、まずそこから考えさせていただき、示していただきたいと思うが、いかがか。

【会長】

前回、前々回もその指摘がありなかなかお答えいただけない部分がある。市長が去年この場所に作るのが腑に落ちないと言った。我々も腑に落ちていない。お金がないのも分かる。いつまでにどのくらいどうしたら良いかが分からない状況に事情を察知はするが納得していないのではないか。おっしゃっているのはよく分かる。

【事務局】

前回前々回お話しいただき、会長からもあった内容のご意見と受け止めている。その時にも申し上げたが、必要なものはやはりしっかりと整備をする必要があると思っている。一方で、資料にもあるように効率的な運営ができるものや工夫ができるところはやはりそのような考え方を取り入れていく必要もあるだろうと思う。先程委員からあったようにこれまで本当に様々な議論を数年かけて行ってきた。その時々々の社会状況、置かれた状況を前提に議論をさせていただいたと認識しているが、そのような状況も時代の変化とともに変わってきている状況があるので、そのような状況の変化も、可能なものについては反映させていく部分もあるだろうとのことで今回案をお示ししたので、前回も申したように、決していくらか削減する、何㎡削るありきの考えではないということは、本当にご理解をいただきたいと思っている。先程言ったように可能な見直しについては、していく必要があるのではないかとの中でご意見を頂戴しながら見極めていきたいので、答えにはなっていないかもしれないが、改めてお答えする。

次第2 市民文化活動振興プランについて

【事務局】資料2 市民文化活動振興プランについて説明

【会長】

全般的なところで前回、前々回のプランを踏まえながらされているが、資料の「方向性等」に書かれている文言は「創出」が目立つ。創出は良い言葉だと思うが、今までも文化振興をしてきてプランがあった。既に行っていることをさらにもう少し力を入れていくのは創出でなく拡充や充実。拡充は予算のイメージがあるかもしれないが、創出とは違う気がする。「推進」も少しあり、「検討」は仕方ない。「整備」も書きようがないと思うが、「創出」で少しくくりすぎな気がするがいかがか。他の所の振興計画等を見ると拡充や充実と使い分けられている気がするがいかがか。

【事務局】

第2次改訂版から4つの基本方針に「機会創出」のフレーズがあり、少しそちらに振られているところはあると思うが、会長がおっしゃるとおり拡充や充実は大事なフレーズと思う。予算を伴うところもあるのでどこまで素案で盛り込んでいけるかになると思うが、違いを出し対応できればと考えている。

【委員】

「人材育成」の「方向性等」で「子ども」と「若者」が分けて書かれているが、具体的なそれぞれのイメージ、わざわざ分けて書き意図するところは何か。

【事務局】

子どもと強調し若者とそれぞれ書いているが、現状で次の世代を担うあるいは今既に若者向けの事業が不足しているので、あえて子どもと若者を使い分けさせていただいている。

【委員】

子ども向けもするし、若者は感じ方があると思うが具体的にどの層か。

【事務局】

「中間層」とも書いておりその定義は皆さんそれぞれ少し違うと思うが、大体20代から40代。

【委員】

力になってくださる団塊世代も人口比率で多くいらっしゃり、その世代に育成というものも

言葉が少し難しいとは思いますが、触れる機会を作るなど、今まで仕事をしてきたが辞め何をしたいかわからない、散歩しかすることがない方もいらっしゃるの、そのような団塊世代や退職後の世代の方の取りこぼしが無い掲載があっても良いと思った。

【会長】

一番切符を買ってくれる大事な世代。基本は「あらゆる世代」で捉えるかと思うが、プラス誰もがとの意味では障害、お金、日常生活の文化に掛けられる時間のゆとりの有無に関わらず、皆さんが文化に親しむ場を責任持ち作っていくことが少し強めに今回のプランではあっても良いと思う。包摂が盛んに言われている。いかがか。

【事務局】

今おっしゃったまさに「あらゆる世代」と書かせていただいているが世代だけでなく様々な環境の方に芸術文化に均等に公平に触れていただくのが大事と思っているので、全ての人が含まれるような表現を考えたいと思う。先程ご質問にあった「子ども」と「若者」も、本当に小さい頃で今から文化かスポーツかどうしようかという子どもにまず文化に触れていただきたいとの思いと、今はスポーツをしている中高生にも今後触れていただきたいとの思いもあり分けて書かせていただいた。今一番人口の多い団塊世代の方にも新たな人生の過ごし方として芸術文化に触れていただくことも大事かと思う。そのような中で素案の中で我々が今回目指しているのはもちろん全ての方というのは頭の中にあるが、今回は若者を集中し、全てのうちに若者を置きながらも力を入れるところも皆さんの力をいただきながらと考えている。

【委員】

広く全ての世代をカバーしターゲットにすると表現できる形を模索していらっしゃると思うが、資料の真ん中の「現状、方向性等」の「長崎市の芸術文化を取り巻く社会情勢の変化」で、まずは「少子高齢化」、「人口減少」があり、長崎市の目下の一番の課題。いかに人口を増やすかだと思うが、それも交流人口でなく定住人口をしっかり増やしていきたいと思っいらっしゃると思う。子どもの同級生がたくさんいたほうが嬉しい。資料を見ると「子どもから大人まで」は分かるが、少子高齢化、人口減少に視点を向けると、まだ子どもになっていない妊婦さん、今から子どもを作ろうとしているご夫婦も、項目として取り上げて対象にすべきではないかと思う。第2次改訂版を以前にいただいていたので見ていたが、ここに書かれているものでなく「はじめに」という全体の考え方を冒頭書くところがあり、そこに文化施設の重要性も書かれているが、この中に少子高齢化、長崎市の人口が減少し続ける中でいかに文化芸術をもってそれに歯止めをかけるかとの決意を示していただきたいと思う。この項目の中に挙げられないのであればはじめにの文章の中でも結構である。この中でやはり書いていただきたいのは、赤ちゃんがお腹にいる母親、乳幼児を抱えた親も文化を楽

しめると明確に示していただけないかと思った。基本理念に「子どもから大人まで誰もが、芸術文化を学び楽しみ続けられるまちづくり」と挙がっているが、こうしか言いようがないと思うし、簡単にまとめるとこうなるのだろうが、これにより長崎市で赤ちゃんを産み育てたいと思わせるものをどこかにうたっていただきたいと思う。文化は楽しみ学ぶことだがそれだけでなく生きる糧。文化がないととてもそのまちには住めないと思う。砂漠の真ん中に高給を払う会社があっても母親がそこで子どもを育てたいと思わない。やはり文化的な環境があり、子どもを健やかに育てたい、そのようなまちづくりをしていきたいと思う。だから、子どもを育てたくなるまちづくりをどこかに香らせてほしいと思う。項目として挙げるのであれば、単なる子どもでなく、子どもになる前の赤ちゃん、妊婦さん、子どもを作ろうかと思っているご夫婦も楽しめるものを入れていただければと思う。

【事務局】

総合計画からおりてきて文化としてもしっかり貢献しようとプランを作るが、今おっしゃった視点は総合計画の中ではSDGsの観点で貢献するようになっており、プランに盛り込む必要があると思う。今ご指摘いただいた「現状・課題」は、現状をお示ししているものであるため、委員からいただいた意見は「素案の中で検討」部分に入れていきたい。

【会長】

先程の意見は長崎市の3本柱に直結する課題だと思う。文化施設でどのような賑わいを作り、どのようなまちを作り、どのような人が集まってくるかにまさしく直結する。

【委員】

子育て支援はもう少し広い範囲だと良いと思ったので委員の意見に賛成。あらゆる人との言葉が出てきたが、前回のプランから何が変わっているかと考えていくと、SDGsもあるが、インクルージョン(包摂)があると思う。ピース文化祭には障害者芸術祭も入っているので、そのあたりの概念も入っていたら良い。世代や男女ではなく、障害を持っている方も参加できるのが、10~20年の間に大きく変化したところなので、そのような概念を入れてほしい。質問だが、「長崎市の芸術アドバイザーの育成が課題」となっているが、どのような方を育成するのか。また、「デジタルアートの普及」との言い方をしているが、なぜデジタルアートだけ特別に出されているのか。

【事務局】

デジタルアートは、文化芸術基本法でも一つの分野としてあり、これまでこのような分野を取り上げることが無かった、集中的に取り組むということではなく、この分野にも目を向けていくとのことで文言を入れている。

【事務局】

芸術アドバイザーは、審議会臨時委員だった音楽の児玉氏と演劇の津村氏のお2人に協力いただき、例えば音楽はアウトリーチでお手伝いいただいている。そのような方々の次をつないでいくために、育成が必要ではないかとの趣旨である。

【委員】

長崎市が芸術アドバイザーを引き継げる方を今後育成するのか。

【事務局】

誤解を生む書き方になっている。意図として、現在児玉氏と津村氏に就任いただいているが、長崎市にもそのような観点のある方、芸術文化をつなぎプロデュースできる方が必要との意味で書かせていただいている。

【委員】

メディアアート＝デジタルアートではなくメディアアートだとより広い概念となるが、あえて狭めた理由を知りたかったので、メディアアートとしたほうが良いと思った。メディアアートという言葉を使うと、漫画やアニメなど比較的長崎市が使おうとしているものにつながりやすいものがあると思う。骨子案の「創る」に「文化施設の整備」があるが、「支える」にもなると思う。場の創出でもあるが、芸術を支えるものにもなるのではないか。また「支える」は活動支援にお金を付けると読めるがそれで良いか。

【事務局】

「文化施設の整備」はご指摘のとおりと思う。「方向性等」には資料の下の方に「環境の整備」として書かせていただいております、活動を「支える」に入ってくると思う。したがって、「施策の柱」として「創る」に入っているが、両方に係る領域になると感じた。支援については、現状としても、助成金を支援し活動を促す取組みをしているので、継続してできることをしていきたい。「支える」は必ずしも助成金ではない形もあると思うので、一番フィットしたものを選んでいきたいと考えている。

【委員】

先程の「芸術アドバイザーの育成」につながってくる。お金の支援もするが人的支援もするのが、市内で芸術文化をアドバイスする人を育成するところ。「施策の柱」の「芸術文化を担う人材の育成」と書いているが、芸術文化そのものを創出する人だけではなく、アドバイスや、アレンジや、キュレート(情報収集、選択、共有)ができる人を作ること。「支える」は、お金も人の支援もすると読めるように作ったほうが良いと思う。

【事務局】

了解した。

【会長】

一般的にデジタルは広い意味ではメディア芸術だろうが、既存のものに対しペーパーレス化、DX の概念でデジタルという言葉を入れるのが説明を入れておくと分かりやすい方もいると思う。デジタルアートを盛んにするかと思ったがそうではないようである。委員の皆さんにたくさん意見を出していただき、次に盛り込んでほしい。

【委員】

プランに子どもが盛り込まれ良かった。「方向性等」に、「子どもの頃から身近に芸術文化に触れる機会」がたくさん出てくる。これはあるものに触れるイメージだが、触れることと創造する主体ということも書いていただきたい。与えられてそれを受ける対象だけではなく、自ら主体者として文化を創造していくことを応援したいので、「触れ創造する機会」などで表現していただきたい。

【会長】

先程のアドバイザーの件だが、プロデュースやアートマネージャー、コーディネーターを育てる意味だと思う。いきなりアドバイザーを育てるのは経験が必要。最近調べているが、芸術監督を置くか置かないかとの議論もある。ちなみに長野県では各館に芸術監督を置いている。

【委員】

「芸術文化に親しむ機会の創出」に、「長崎らしい芸術文化のフェスティバル」とあるが、どのようなフェスティバルを想定しているか。

【事務局】

1 回目に説明した、できていることできていないことの、まさにここはできていないところ。平成 25 年度はこのように書かせていただき平和や国際文化あふれるまちを踏まえフェスティバル開催を取組み内容に入れているが、今まで取り組めていない部分である。ここが第 3 次改訂版でどのようになっていくかは素案で検討させていただきたい。

【会長】

審議会でもこれまでも「長崎らしい文化」については話してきたが、何をもって「長崎らしい」なのか、なかなかたどり着けなかった。新たな文化施設基本計画には「芸術文化と平和を世界と共有する」とざっくりしか書けなかった。長崎らしさは、長崎特有や長崎ならではなど、

必要なものだが、どう表現するのか考えどころ。

【委員】

「方向性等」の「実際に劇場に足を運ぶ」は想像しやすいが、まちのにぎわい創出も芸術文化が生きる糧との他委員の言葉にあったように、より日常に落とし込める表現があれば良い。例えば、おくんちがあれだけまちなかで音を出しても皆何も言わず、見に集まって応援する。これは長崎の一つの文化だと思う。芸術もそうあるべきということはさておき、まちなかはそのようなもの、その他のまちなかから外れたエリアでは、それぞれ商店街がある。まちなかに来なくても自分のまちの商店街など、施設に行かなくても身近で日常生活に落とし込めるものがあれば良いと思った。

【会長】

基本法も概念を広げているので、日常に近づくが良い。今後の進め方は、もう少し書き込んだもの、以前の振興プランの冊子が出てきて、それをもとにパブコメ、議会説明、年内完成か。

【事務局】

本日の意見を踏まえ、素案作成に入る。議会が始まるので議会明け7月にそれをお示しできればと思っている。審議会も1回か2回かもあるが、調整し進めさせていただきたい。

【会長】

プランができあがった後、より多くの市民の皆様に見ていただく工夫は考えているか。

【事務局】

市民に意見を伺うのは大事だが、素案そのものよりはダイジェスト版にする工夫は必要で、どう見ていただくか。通常はホームページだが、他にもツールがあるので、それも含め検討する。

【会長】

今日はこれで良いか。他の所の計画で、共通している概念が、「誰でも・どこでも・いつでも」の3つあるが、それを目指していくプランであってほしい。そのうえで「創造的な長崎市を創る」のは大事。「覚悟・決断・行動」の大元がプラン、それに基づきどう文化や未来を作るか。行動は我々でもあり文化振興課の責務でもある。それにつながる覚悟があるプランになれば良い。

【事務局】

プランの部分で確認したい。具体的な若者、障害者、子どもなど話を頂戴した。お答えしているように素案の中で次回お示しする。今日は第3次改訂版の「基本理念」から「施策の柱」までの部分がこれで良いか確認させていただきたかった。この柱に若者や施設整備も含め具体的などころがぶら下がり次回お示ししたいと思っている。まずはこの方向で進めて良いかと、第2次改訂版の「取組み内容」にあるような具体的なことを次回お示しする中でさらに具体的な意見を頂戴したいと思っている。

【会長】

骨格としてはこの方向で良いか。

【委員】

ここに書いている文言をそのまま良いかとのことか。

【事務局】

枠、フレームであり、一字一句は今後も修正できるが、基本的な部分を持っていないと下にぶら下がるものが変わるので、「基本理念」、「基本方向」、「施策の柱」は基本的にこれで良いかとのこと。

【委員】

子どもからでなく産み育てるからを読み取れるようになればと思った。骨格はこれで良い。

【会長】

大きな作りはこれでいかに中身を入れるか。今後の改訂版でどこを重点的にするかメリハリがあったほうが良い。可能ならここに力を入れるとの書き方があれば良い。

以上